

令和5年度 多摩市立聖ヶ丘中学校 学校評価書(最終)

学校教育目標	
人権尊重を基調とし、健康で人間として調和のとれた個性豊かな生徒を育成する。 ○ 心身ともに健康で実践力のある生徒 ○ 深く考え進んで学ぶ生徒 ○ 人や物・自然を大切に作る生徒	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
・生徒にとって行きたい学校 (学習意欲が沸き、自他を認め合い、いじめがなく、感動的な体験ができる学校) ・保護者にとって通わせたい学校 (安全・安心で生きる力が育まれる学校、信頼できる教職員のいる学校) ・地域にとって信頼できる学校 (情報が適切に発信され、地域の願いや教育力を活かせる学校) ・教職員にとって充実感のある学校(生徒や保護者・地域との信頼関係があり、努力や取組の成果を感じられる学校)	
目指す子供像	目指す教師像
・自他を尊重し、思いやりの心を持ち、より良い人間関係を築ける生徒 ・社会の一員としてしっかりとした規範意識と向上心を持つ生徒 ・課題意識を持ち、学習活動・特別活動・部活動などに主体的・協働的に取り組める生徒 ・常に健康・安全・体力の向上に努め、将来にわたって心身共に健康な生活を送れる生徒	・教育に対する熱意と使命感を持ち、向上心と適応力のある教師 ・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・生徒の良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ・組織人としての責任感、強調性を有し、互いに高め合う教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	ESDの視点を踏まえた教育課程の編成と適正な実施、満点体験や適正な評価等による学習意欲の向上、地域の教育力も活用した英語力の向上			
評価項目 (目標とする成果・指標%)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
SDGsとの関連やねらい明確にした授業、1単元1回以上のICTを活用した授業、補習等により、授業がわかると感じる生徒は90%以上になる。	4	SDGsとの関連やねらい明確にした授業、1単元1回以上のICTを活用した授業は概ね実施。授業がわかる生徒は87%(9月)	A	人前で発言できる力を付けるよう、対話を重視した授業を。英検3級以上を50%以上にするのは大変だと思うが、達成を目指してほしい。
基礎学力と自己肯定感の向上のため、全教科で全生徒に各学期1回以上の満点(目標達成)を体験させる。	4	1学期・2学期とも、全教科でほぼ全員が各学期1回以上の満点(目標達成)を体験。	A	SDGsは、生徒より、大人側の意識の向上が必要と思う。英検受験者数が毎回100人を超えるように未来塾としても協力したい。
英語力の向上のため、英語による校内掲示、英語ビブリオバトル、未来塾による英会話や英検対策等により、3年生の英検3級50%以上を目指す。	3	英語による校内掲示、未来塾による英会話や英検対策実施。3年生の学力調査では全国平均を上回ったが、英検3級以上は88人中33人で38%にとどまった。	A	満点体験は生徒の自信につながる取組と言える。
評価のまとめ	SDGsとの関連やねらい明確にした授業、ICTを活用した授業等により、学習意欲の向上も見られた。また、目標を設定し主体的に取り組ませることや満点体験などにより、基礎学力や自己肯定感の向上に効果的であった。次年度は、SDGsのテーマと取組内容を見直し、質的な向上を図る。また、さらなる授業改善に加え、地域と連携した取組で英検受験者数を増やし、合格者50%以上の実現を図る。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上~100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上~90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上~70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	ESDの視点も踏まえた道徳教育の推進、生徒の心に寄り添う生活指導、生徒の主体性の尊重、いじめの防止、特別支援教育の充実、不登校生徒の支援			
評価項目 (目標とする成果・指標%)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
道徳科の授業等で、生命や人権尊重、SDGsに関連する道徳的な課題を、1年間を通じて重点的に取り扱う。	4	年間指導計画を基に、道徳科と各教科やESDカレンダーを踏まえた別業)作成し生命尊重、公平公正などを重点的に指導。	A	94%は素晴らしいと思うが、そう思わない生徒の声を聞いて対策を立て、さらに100%を目指して欲しい。
毎月のいじめ対策委員会や担任やSC等による個別相談など、継続的組織的取組により、90%以上の生徒が安心な学校と感じられる。	4	いじめの発生に、迅速かつ組織的に対応し、数件の調査中。安心できるとした生徒は全体の94%(2月)	A	今後も、より多くの生徒が安心して過ごせる学校であるよう期待する。
特別活動や行事等を通じて生徒に自信を持たせ、自己の良い面を認識できる生徒を80%以上にする。	4	行事等で、生徒の主体性をはぐくむよう努めているが、自己の良い面を認識できた生徒は77%である。(2月)	A	心の栄養のため、読書活動の推進を。道徳で、実際の体験に基づく内容まで落とし込まれていることも効果だと思う。
評価のまとめ	全校で取り組む道徳教育や、特別支援教育の充実、生徒主体の学校行事や生徒会活動、部活動の充実など、1人1人の生徒に達成感を持たせることで、自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒が生まれ、いじめ防止にもつながっている。今後はそれらの取組を継続充実するとともに、一人一人の心に寄り添う指導も組織的、継続的に行い、全員が「安心できる」学校を目指す。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	ESDの視点を踏まえ、オリパラ教育レガシー、スポーツライフ推進校としての他校や関連機関と連携した取組の推進、外部人材を活用した健康安全教育の推進			
評価項目 (目標とする成果・指標%)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
授業や生徒指導、講演会などの健康・安全教育を通じて、病気やけが、事故防止に努め、喫煙・薬物使用、重大事故、交通事故ゼロを目指す。	4	感染症防止対策を継続しつつ教育活動を実施。安全指導も予定通り実施。現在、重大事故、交通事故は0件。	A	重大事故0は、ぜひこのまま継続してほしい。
オリパラレガシーとして、パラスポーツ選手による指導や多摩桜の丘学園との交流(年3回)等を通して障害者理解やボランティア精神の向上に努める。	4	桜の丘学園教員による出前授業、生徒同士のオリパラ交流会やポッチャ交流、マラソン大会も実施。	A	桜の丘学園との交流もさらに一歩進めてほしい。
評価のまとめ	心身の健康増進のため、食育も推進して欲しい。自転車のヘルメット着用も推進を。			

授業や行事、部活動等を通じて、体力の向上を図り、体カテスト等で自己の目標値に達することができる生徒が90%以上になる。	4	スポーツライフ推進校の取組等により、84%の生徒が体カテスト等で自己目標に到達している。(2月)	A	自己目標達成がもう少し上がるように期待する。今後の部活動のあり方への検討も必要に思う。
評価のまとめ	新型コロナの5類移行後も、コロナ禍により感染症予防が習慣化したこともあり、インフルエンザ等の流行も最小限にとどまっている。体育祭や合唱祭等の学校行事も従来に近い形で実施し、桜の丘学園とのポッチャやマラソン大会の交流も従来通り行い、障害者理解にも成果があった。また、スポーツライフ推進校の取組により体力向上や目標達成への意識は高められているので、さらに継続的に取り組み、自己の目標達成率9割越えを目指す。			

令和5年度 学校評価書

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	コミュニティスクールとして、学校関係者への公開と情報発信の推進、ESDの視点を踏まえた家庭・地域・関係機関との連携、特別支援学校や小学校との連携			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
年3回以上の関係者への授業等の公開、HP、学校便り、PTAメール等、適切に情報発信する。	4	学校公開は制限なく予定通り実施し、HP、学校便り、PTAメール等、適切に情報発信している。	A	地域活動へ意欲的に参加する生徒が多く、比較的良好に連携ができてきているといえる。保護者が学校に興味を持てるような、授業参観の工夫もあるとよい。多忙の中で、家庭や地域との連携の推進は大変だと思うが、情報発信などでも支援していきたい。
運営協議会を年3回開催し、地域学校協働本部や青少協、PTA等と連携した活動を推進する。	4	未来塾や英会話、スポーツ大会参加など、地域と連携した活動を継続。学校運営協議会も3回開催し、評価と承認を得た。	A	
小学校や特別支援学校との連携のため、教員や生徒の交流の機会を毎学期設ける。	4	教員の小中交流会、小学生の中学校体験は、2月に授業と生徒会制作のビデオ紹介を実施。	A	
評価のまとめ	新型コロナの5類移行により、地域協働本部の方々の支援や関係各校、PTA等との連携・協力の下、コロナ禍以前に近い形で地域とのかかわりやSDGsを意識した活動に取り組ませることができた。次年度は、家庭や地域、関係機関との連携について、互いに無理なく、負担の少ないように努めながら、一層の充実を図る。			



2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

学校運営協等の評価を踏まえ、学習指導要領及び市の教育ビジョンに沿って、次年度の教育課程を編成する。その際、下記の点を指導の重点とし、様々な教育活動の見直しや改善を図りながら学校運営に取り組む。

[令和5年度の指導の重点]

- SDGsを踏まえたESDの推進と道徳教育の充実を柱としたカリキュラムマネジメント
- 生命・人権尊重教育の推進、いじめの対応と防止、不登校対応等の特別支援教育の充実(安心できる学校)
- コミュニティスクールとして、地域と連携した教育活動や学校運営の推進
- 行事や特別活動などの生徒主体の活動や学校運営協議会への出席など、生徒の主体性の育成。
- ICTの活用、満点体験、英語力向上の推進等とともに、個別最適な学習と協働的な学習を積極的に取り入れ、中心とする指導に努め、生徒が、学びたい内容(課題)とその方法などを自分で選べる機会を増やすことなどにより、より主体的に取り組ませることなどにより、学力やコミュニケーション力、望ましい自尊感情・自己肯定感・自己有用感を育む。
- 働き方改革の推進

以上のとおり報告いたします。

令和6年3月1日
多摩市立聖ヶ丘中学校 校長 麻生 隆久



多摩市立聖ヶ丘中学校